

あゝが隊新聞 Vol.77

2019年9月26日 編集者：本多紗智

2019年9月26日
編集者：本多紗智



上野真純



本多紗智



初瀬健太



卷之三

まえたの天龍山墓らし～入門～

文：前田美沙

地域おこし協力隊の前田です。個人的な近況ですが最近、夜寝る前や休み時間に本を読むことが増えました。私は集中力がある方ではないのでもともと読書はあまり得意ではないのですが、専門書を読むのは結構好きでその時興味を持つている分野の本をよく読みます。

先日初めて飯田市の図書館へ行つたのですが、農業書籍のバリエーションがかなりあって驚きました。今まで新品で購入して読んでいたような農文協系の本はほぼ置いてあり、お茶に関する書籍もかなりの量あつたので、図書館で一人盛り上がっていました。その中ですごく面白い本があつたので、少し紹介したいと思います。

「緑茶のマーケティング」岩崎邦彦／著『消費者が買っているのは商品（モノ）ではなく、その商品がもたらす「価値」である。』という視点から、どうやつたら緑茶が売れるのかを考えていくといった本です。

この本の中にあつた「「緑茶」で連想するイメージは何ですか？」という統計調査の結果が面白く、「やすらぎ」「癒し」「ほつと一息」など、休息やリラックスしている様子を連想する人が大半だつたのに対し、「緑茶」//「茶葉」という連想はほとんど出てこなかつたそうです。

緑茶を買う人は商品としての「茶葉」を買つているように見えて、美味しいお茶を淹れて飲むひと時の「癒し」を求めて買つている。

つまり、お茶農家さんは「お茶」だけを生産しているように見えるのですが、実際は人々に「癒し」や「ホツとする時間」を一緒に提供しているのです。

という言葉があり、言われてみると全くその通りだなあと目からうろこで、とても嬉しい気持ちになりました。若い人は急須でお茶を淹れて飲まないとよく言うのですが、それは「面倒くさいから」という理由だけではなく、単純に「自分に合うお茶の淹れ方」や「自分でお茶を淹れて飲む時間」にあまり触れる機会がなかつただけなのではないかと思います。一口にお茶と言つても熱いお茶、冷茶、氷出しのお茶、少量の熱い湯を注いだ後に氷を沢山入れて出す方法などなど、美味しい飲み方が沢山あることを私も最近まで知りませんでした。

コーヒー や紅茶好きな人が沢山いるのだから、緑茶ももっと飲み方に触れれば、若い世代にもすんなりと受け入れられる飲み物だと感じます。

まずは私も勉強しながら、色々な方とお茶の飲み方に改めて触れる機会を作りました。



今月の隨筆（ずいひつとは、心に浮かんだ事、見聞きしたことなどを筆にまかせて書いた文章のことです。）

文：上野 真純

財布のひもが固くなりますが、軽減税率。ややこしいですね。税抜価格が一万円以下で条件に合えば、令和五年九月三十日まで8%の税率で物品購入でできるというものです。複雑すぎて思考が停止してしまいます。低所得者のために軽減税率を作ったようですが、何か消費税に関する本質から目をそらさせるようわざと軽減税率を複雑にして消費者の思考を混乱させているのではないかと疑っています。

措置を受けて、優遇措置を与えてくれた所に対し忖度なく情報を提供できるのでしょうか。与えられる情報を鵜呑みにせず考えることを習慣にしていこうと思いました。



ゆらゆら変遷記～天龍村Ver.～【初瀬健太】



もうすぐ秋です。おいしい季節です。一番好きな気候です(花粉もないし!)。すごく個人的なことですが、カメラを買い換えました。じぶんの中で2度目のカメラブームが到来して、今までのカメラでも十分よかつたんだけど、今度は完ぺきに使いこなせるよう勉強するから!と自分に言い聞かせ、そんな自分に期待をして買ってしまいます。(笑)あざやかな天龍映えする季節が始まります。せつかくなので、ぶらぶら歩きながら天龍村をカメラで切り取つて、SNSで発信します。

一ヶ月ぶりに天龍村に降り立った時に一番に感じたのは、徹底的に配置された山々の圧倒的存在感でした。いつもどこから戻ってくると、山々が頬杖をついて上から眺めている視線を感じずにはいられないのです。長く離れていればいるほど、その視線は強さを増します。台風の影響か、ここ数日（九月上旬）は残暑が厳しいですが、その日はすでに日が傾き始めていたこともあり、夏の後ろ姿が見えるような気候でした。佐賀にある実家で休んでいた時は、あまりの暑さに午前中から冷房を入れないと耐えられず、七月よりも九月のほうが肌が白くなるほど、一日を涼しい空間のなかで過ごしていました。なので、真夏の太陽を浴びることもなく、滝のような汗をかくこともなく、蒸し風呂のような湿度でベタベタすることもなく、夏が真横を通り過ぎて行くのを見ました。でも、やつぱり見ているだけでは物足りなくて、今となつては夏を良くも悪くも過ごし損ねたなーとちょっと残念な気持ちでいます。

物足りないような、過ごし損ねた感じがあります。多くの方に心配をお掛けしてしまいましたが、なんとか戻つてきました。体調不良のため一ヶ月ほど天龍村を離れて地元に帰つております。詳しいことはここで述べることではないので書きはしませんが、書かなくとも普段からお世話になつていての方々、特に大河内地区の方々はご存じだつたようで(たまに間違つた噂も聞きましたが、まあそこはご愛嬌)、大河内にいると、心配してくれます。ありがとうございます。まだ本調子からはほど遠く、自分自身でもどこまで気持ちを入れていいいのかその加減が分からないので、今は抗うことなくぶかぶかと波に揺れるよう日々を過ごしております。

刻々天龍村 長月だより

こんにちは。この新聞が回覧で回っている頃には、ようやく秋が深まっている頃と思いまます。今年の夏も本当に過酷な暑さで、よく生き残ったなあという感じです。同じくらいの気温でも、山間部で過ごすのと、離島や海に近い場所で過ごすのはだいぶ気分が違うものだなあとしみじみ感じていました。恐らく視覚的な影響が大きいのかなと思います。

八月は本当に暑すぎたのと、ちょっとした手の怪我をしてしまったこともあります。ほぼ室内で編集作業をしていました。昨年の冬頃から合間を見て行つていた聞き取りを順番に冊子にしています。ひとまず二名分の仮原稿が完成したため、ご本人に目を通していただいてから製本に入れます。ちなみに、タイトルは「ききがたり×ものがたり 天龍村」です。

九月半ばには、知り合いの大学生兼まちづくりNPOに所属しているメンバーが、またまた弾丸スケジュールで来村してくれます。色々な暮らし方があることを知れたら嬉しいというメッセージをいただいたので、都市部の方ではなかなか見られないであろう暮らしを体現している村の方々を訪問し、色々な体験をさせていただければ、と考えています。

読書の秋、本の虫が鳴き始めたようで、早い時には一日二冊くらい読んでいます。特に小説が好きで、子どもの頃から少年探偵ものなどを読みあさつて育ったので、今でちょっと昔の探偵小説というか、日本の昭和手前くらいまでのレトロで怪しい世界観の面白い作品を見つけると、ついワクワクしてしまいます。



8月14日、坂部の掛け踊りを見学しました。実家では感じることのできない、独特のお盆の雰囲気を経験できてよかったです。